

# 日本コミュニティ心理学会 第25回大会 プログラム

テーマ「コミュニティのなかで多職種協働をいかに学ぶのか」  
What study Inter-Professional Education in your community?

2022年9月24日（土）・25日（日）

オンライン開催  
【就実短期大学】

“What study Inter-Professional Education in your community?”

Justice /  
Correction

Education

Labor / Industry

Junior college

welfare

Medical / Health

University



【大会WEBサイト】  
【参加・発表申込サイト】

[taikai@jscp1998.jp](mailto:taikai@jscp1998.jp)

<https://jscp2022.peatix.com>

日本コミュニティ心理学会  
第25回大会 プログラム

コミュニティのなかで  
多職種協働をいかに学ぶのか

会期 2022年9月24日(土)・25日(日)

方式 オンライン(主催:就実短期大学)

大会長 荊木 まき子

## ごあいさつ

この度、第25回大会の大会長を務めさせていただくことになりました荊木まき子です。今年度は初の中国地方開催となりましたが、安心して皆様に大会に参加していただきたい気持ちもあり、オンラインと対面の良さを取り入れ、自由な雑談が可能なアバターによる「oVice」での開催形式で開催することとなりました。

運営委員の先生方も、地方とオンライン形式の長所を活かすべく、「せとうちコラボ研究会」からのご縁と常任理事会の会員を中心に依頼いたしました。実行委員は、中国・四国地方で活躍されている方、これからの日本コミュニティ心理学会を背負っていかれる方々を中心に、個性豊かな先生方に協力いただくことになりました。大会も、これまでの学会の良さを引き継ぎつつも、だれもが楽しめる大会になるよう活発に議論を重ね、抄録原稿の様式やプログラム構成の改変、懇親会での授賞式復活等、様々な取り組みを取り入れております。

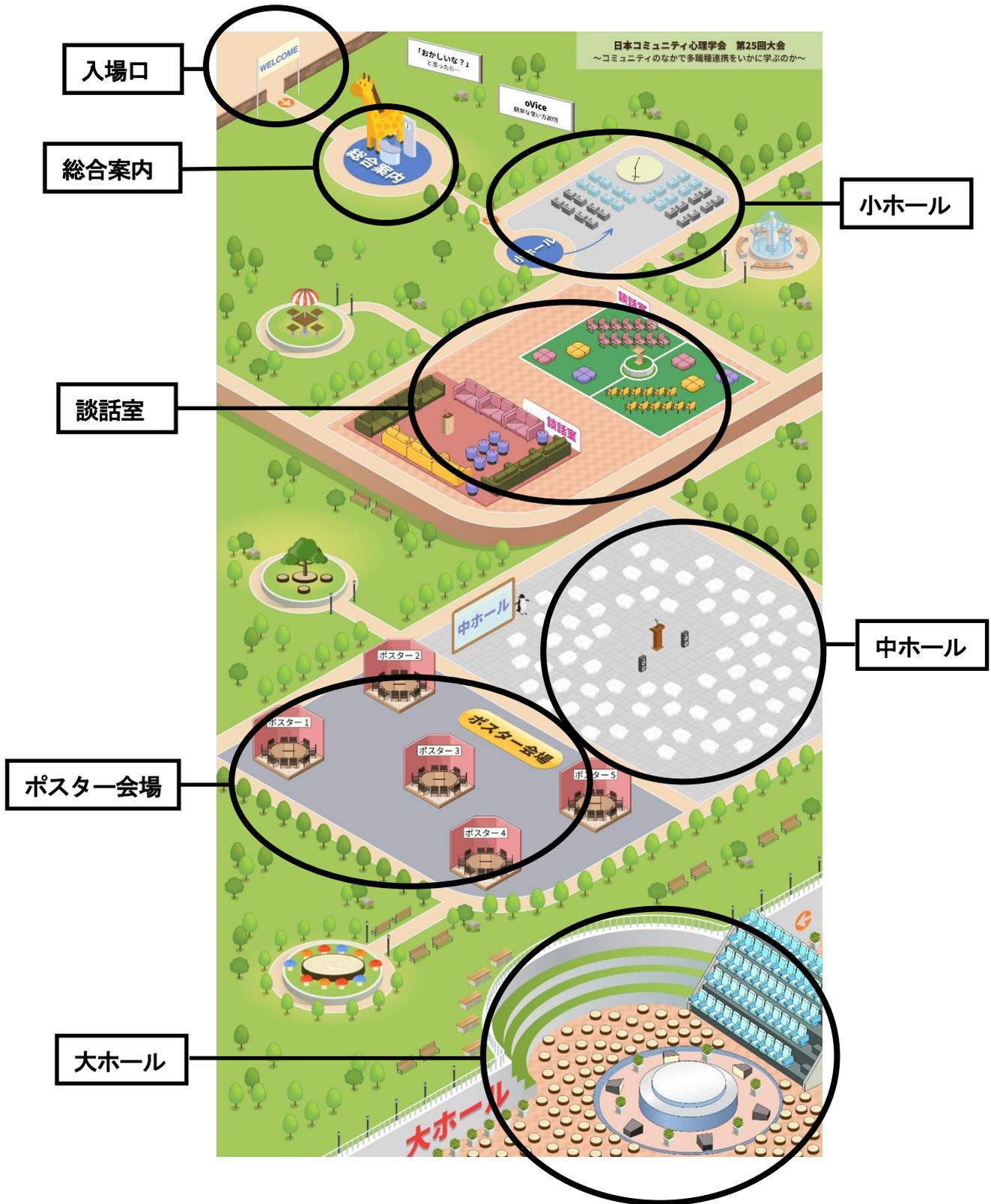
今大会のテーマは、「コミュニティのなかで多職種協働をいかに学ぶのか」とさせていただきました。コロナの感染状況により目まぐるしく変化する養成教育だけでなく、各現場で複雑化する個々人の課題に柔軟に対応するには、それぞれの領域でコミュニティ心理学の基本的概念である「協働」をいかに学ぶのかを考える必要があると思います。今回は、多職種連携教育の先進的分野である保健医療福祉分野の知見を受け継ぎ受けつつ、これまで多職種連携教育の中であまり取り扱われてこなかった学校領域や心理職の教育を中心に、多様な領域での多職種連携を学ぶということを、皆さんと一緒に議論し、考えていきたいと思っております。

今年度は、「oVice」による2日間の大会となります。参加者の皆様には事前に「oVice」の大会会場に入らせていただき、操作方法をご理解いただいたうえで参加していただけると、安心して参加していただけたと思います。去年同様パソコンやタブレット、通信環境を整備していただいた上で、無理のない範囲でご参加いただければ幸いです。懇親会や交流の場も用意していますので、本学会の良さである“コミュニティ的な雰囲気”や、新しい出会いを楽しんでいただけたらと思います。そして、本大会を通して、大会メインビジュアルの瀬戸内海に浮かぶ様々なコミュニティのなかで展開される多職種連携につながれば、これ以上の喜びはありません。

会員の皆様にとって有意義な大会になるようにしていきたいと願っております。「oVice」上でお会いできることを楽しみにしております。

日本コミュニティ心理学会第25回大会 大会長 荊木 まき子

# 会場案内



# 大会スケジュール

1日目 2022年9月24日(土) 9:00~20:00

9:00	基調講演(大ホール) 9:00~10:40	
11:00	研究発表(口頭) A (小ホール) 11:00~12:00	研究発表(ポスター) A (ポスター会場) 11:00~12:00
12:00	昼休み	
13:00	総会(大ホール) 13:00~13:30	
13:30	会員企画シンポジウム ①(中ホール) ②(小ホール) 13:30~15:30	研究発表(ポスター) B (ポスター会場) 13:30~14:30
14:00		
14:30		
15:00		
15:30		
16:00	編集委員会・教育研修委員会 合同企画ラウンドテーブル (大ホール) 16:00~18:00	研究発表(口頭) B (小ホール) 16:00~17:20
16:30		
17:00		
17:30		
18:00	会員の集い 18:00~20:00	院生・若手の集い 18:00~20:00

2日目 2022年9月25日(日) 9:30~18:00

9:30		研究発表(ポスター) C (ポスター会場) 9:30~10:30
10:00	会員企画ラウンドテーブル (中ホール) 10:00~12:00	
10:30		
11:00		研究発表(口頭) C (小ホール) 11:00~12:00
11:30		
12:00	昼休み	
13:30	大会運営委員会企画シンポジウム (大ホール) 13:30~15:30	
14:00		
14:30		
15:00		
15:30		
16:00	教育研修委員会主催研修会 (ラウンドテーブル) (大ホール) 16:00~18:00	
16:30		
17:00		
17:30		

## 大会参加者へのご案内

### 1. 会場

oVice「JSCP2022メイン会場」(オンライン)  
( <https://jscp2022.ovice.in/> )

### 2. 会場への入場について

事前申込を済まされた方は、当日受付の必要はありません。

9月16日(金)から9月26日(月)の期間は、会場をクローズド設定とします。この期間は、こちらで入場を許可したoViceアカウントの方のみが入場できます。

事前に、大会参加申込時に入力されたメールアドレスで、oViceの会員登録をしてからご入場ください。

申込時のメールアドレスとoViceアカウントのメールアドレスが異なる場合には、事前に谷淵(tanibuchi.shinya@kagawa-u.ac.jp)へご連絡ください。

### 3. 会場でのお名前の表記について

大会期間中は、ご自身のアバターの名前を「ご氏名(ご所属)」としてください  
(例: 佐藤 太郎(就実短期大学))。

### 4. 会員の集い / 若手・院生の集い

9月24日(土)18時より、oVice会場の2階「集い会場」にて懇親会を兼ねて開催いたします。席を移動しながら近くの人たちと会話する、新しくて懐かしい形式のオンライン懇親会です。後半は、院生・若手と会員の集いの参加者を混ぜて、全員でおしゃべりします。また、時間中に学会賞等の授賞式も行います。

予約不要・会費不要です。食べ物・飲み物を準備して、ふるってご参加ください。会場は24時間開いていますので、二次会、三次会もセルフサービスでどうぞ。

2階「集い広場」への移動方法はマニュアルをご覧ください。

### 5. 総会

9月24日(土)13時より、大ホールにて開催いたします。ぜひご参加ください。

### 6. 基調講演と運営委員会企画シンポジウムでの録画について

基調講演を期間限定でYoutube公開するため、運営スタッフが会場の様子を録画いたします。質疑応答等で発言されていない参加者の方々のお名前にはボカシをいれて公開する予定です。録画と動画公開についてご了承ください。

また、運営委員会企画シンポジウムでは、記録のために運営スタッフが会場の様子を録画いたします。動画は講演録等の作成のみに用いて公開はいたしません。録画につい

てご了承ください。

## 7. その他

oVice利用の推奨環境は、パソコンのGoogle Chromeブラウザ使用です。Google Chrome以外のブラウザでのアクセスやタブレット・スマートフォンからのアクセスでは、接続が不安定になったり一部機能が利用できなかつたりします。ご了承ください。

大会参加中の録音録画や、大会参加者以外を同席させることはしないでください。

## 8. 事前説明会について

以下の2日程で、oVice操作の事前説明会を開催します。設定や操作等で不安のある方はぜひご参加ください。

- ① 9月12日（月）13時30分～15時30分、② 9月21日（水）10時～12時

## 9. 連絡先

大会期間中、お問い合わせ用の Zoom ミーティングを開きます。oVice 会場へ入場できない場合は Zoom ミーティングへお越しください。

（<https://kagawa-u-ac-jp.zoom.us/j/82936958477>、ID: 829 3695 847）

Zoom ミーティングへの参加もできない場合は、第 25 回大会運営委員会直通メールアドレス（[taikai@jscp1998.jp](mailto:taikai@jscp1998.jp)）へご連絡ください。

<p><b>【第 25 回大会に関する連絡先】</b></p> <p><b>第 25 回大会運営委員会 事務局</b> 〒703-8516 岡山市中区西川原 1 丁目 6-1 就実短期大学 幼児教育学科 荊木まき子研究室 Email <a href="mailto:taikai@jscp1998.jp">taikai@jscp1998.jp</a></p>	<p><b>【学会(入会手続・住所変更等)に関する連絡先】</b></p> <p><b>学会会員管理事務局</b> 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター内 TEL 03-6824-9375 FAX 03-5227-8631 Email <a href="mailto:jscp-post@bunken.co.jp">jscp-post@bunken.co.jp</a> 受付時間 9:00～16:00(土日休み)</p>
---	---

# 日本コミュニティ心理学会第25回大会 プログラム

## 基調講演

9月24日(土) 9:00 ~ 10:40

大ホール (oVice)

### 専門職連携の実践家を育成する地域基盤型教育

— 埼玉県立大学と地域との協働過程から —

講師	朝日 雅也	(埼玉県立大学)
司会	荊木 まき子	(就実短期大学)

## 日本コミュニティ心理学会第25回大会運営委員会

### 企画シンポジウム

9月25日(日) 13:30 ~ 15:30

大ホール (oVice)

### コミュニティのなかで多職種連携をいかに学ぶのか

話題提供	岸本 成史	(昭和薬科大学)
	相楽 直子	(宮城大学)
	竹森 元彦	(香川大学)
指定討論	高橋 美保	(東京大学)
企画趣旨説明・司会	荊木 まき子	(就実短期大学)

## 編集委員会・教育研修委員会合同企画ラウンドテーブル

9月24日(土) 16:00 ~ 18:00

大ホール (oVice)

### 研究成果をコミュニティに

— 実践・フィールドからどのように研究・論文を生み出すか —

話題提供	池田 琴恵	(至学館大学)
	萩原 豪人	(杏林大学)
司会	永井 智	(立正大学)
ファシリテーター	飯田 敏晴	(立教大学)
	荊木 まき子	(就実短期大学)
	板東 充彦	(跡見学園女子大学)

教育研修委員会主催研修会（実践編）

ラウンドテーブル

9月25日（日）16:00～18:00

大ホール（oVice）

---

コミュニティで何が起きているのか？

ディスカッサント

板東 充彦

（跡見学園女子大学）

飯嶋 秀治

（九州大学人間環境学研究院）

黒沢 幸子

（目白大学心理学部）

司会

飯田 敏晴

（立教大学現代心理学部）

## 会員企画シンポジウム 1

9月24日(土) 13:30 ~ 15:30

中ホール (oVice)

### 教師のセルフケアをコミュニティ心理学的観点から考える

話題提供	市川 章子	(一橋大学)
	川本 静香	(山梨大学)
	松井 良子	(山梨県小学校養護教諭)
	松野 志歩	(埼玉県立高校教諭)
指定討論	安田 裕子	(立命館大学)
企画趣旨説明	市川 章子	(一橋大学)
	川本 静香	(山梨大学)
司会	川本 静香	(山梨大学)

## 会員企画シンポジウム 2

9月24日(土) 13:30 ~ 15:30

小ホール (oVice)

### コミュニティ心理学的価値に基づくコミュニティにおける「協働」・「連携」の 再考と今後の課題— 公正、変革、アドボカシー、エンパワメントの視点から —

話題提供	笹尾 敏明	(国際基督教大学)
	柳井 静香	(国際基督教大学大学院)
	大内 潤子	(北海道科学大学)
	奥山 裕介	(防衛医科大学校)
	桑山 碧実	(一般財団法人日本総合研究所)
指定討論	榊原 佐和子	(北海道大学)
	笹尾 敏明	(国際基督教大学)
企画・司会	桑山 碧実	(一般財団法人日本総合研究所)

## 会員企画ラウンドテーブル

9月25日(日) 10:00 ~ 12:00

中ホール (oVice)

### コミュニティ心理学における「土着の知」を問う

話題提供	村本 邦子	(立命館大学)
	張 亦瑾	(馨思心身・精神科クリニック)
	河野 暁子	(岩手県立大学／立命館大学大学院)
企画・司会	河野 暁子	(岩手県立大学／立命館大学大学院)

## 研究発表（口頭）

9月24日（土）11:00～12:00

小ホール（oVice）

座長 水野治久（大阪教育大学）

0A-1 11:00～11:20

高齢者家庭における固定電話の受信への対応についての観察研究

石盛 真徳（追手門学院大学）

島田 貴仁（科学警察研究所）

讃井 知（上智大学）

春田 悠佳（上智大学大学院）

高木 大資（東京大学大学院）

木村 敦（日本大学）

0A-2 11:20～11:40

集団宿泊活動への参加による児童の変化とアクティビティ評価の関連

山田 文（上智大学大学院）

久田 満（上智大学）

0A-3 11:40～12:00

コロナ禍における中国人留学生の心理的体験

安 婷婷（筑波大学）

胡 実（筑波大学）

9月24日（土）16:00～17:20

小ホール（oVice）

座長 竹森元彦（香川大学）

0B-1 16:00～16:20

ひきこもり状態にある人の生活の質と関連する心理行動的要因

野中 俊介（東京未来大学）

0B-2 16:20～16:40

多職種協働を学ぶ ―A市における「支援者支援セミナー」を継続して―

村本 邦子（立命館大学）

OB-3 16:40 ~ 17:00

コミュニティ心理学から見たコロナ禍における「共助」としてのフードバンクの  
意義(2)——利用者の支援受領をめぐる心理・行動的変化過程の検討——

加藤 慧 (東京外国語大学大学院)

吉田 光成 (専修大学大学院)

OB-4 17:00 ~ 17:20

文献レビューからみた里親の困難の変化の一考察

田辺 瑠々 (札幌学院大学)

小林 茂 (札幌学院大学)

9月25日(日) 11:00 ~ 12:20

小ホール (oVice)

座長 吉永真理 (昭和薬科大学)

OC-1 11:00 ~ 11:20

多職種連携において求められる心理職の役割と活用への課題

——子育て支援領域に焦点をあてて——

後藤 沙希 (高崎健康福祉大学健康福祉学研究科)

OC-2 11:20 ~ 11:40

「援助要請が生じにくい労働者」における専門家への援助要請行動の生起プロセス

大橋 英永 (東京大学)

OC-3 11:40 ~ 12:00

パラリンピックの開催が障害者イメージに及ぼす影響

久田 満 (上智大学)

伊藤 慎悟 (上智大学)

## 研究発表（ポスター）

9月24日（土）11:00～12:00

ポスター会場（oVice）

---

### PA-1

コミュニティワイドなピア・サポート活動の定着過程に関する事例研究

松下 健（北陸学院大学）

### PA-2

大学生用コロナ禍ソーシャルサポート尺度の作成(4)

——性別・居住形態・地域・学年に関する検討——

上田 仁（愛知県庁）

松浦 均（三重大学教育学部）

### PA-3

中学生における登校への動機づけと学校適応感との関連について

佐々木 梨奈（香川大学）

谷淵 真也（香川大学）

### PA-4

アルコール依存症当事者と協働したアルコール

関連問題心理教育プログラムの実施と評価

三好 真人（常葉大学教育学部）

### PA-5

自然環境に対する自己超越的感情反応と擬人化認知による環境配慮効果の検討

——自然環境体験プログラム参加者を対象として——

坂本 剛（中部大学人文学部）

長谷川 泰洋（名古屋産業大学現代ビジネス学部）

9月24日(土) 13:30 ~ 14:30

ポスター会場 (oVice)

PB-1

犯罪被害者遺族のサポート・グループを運営する  
支援者の主観的体験とセルフケアに関する質的研究  
佐々木 健太 (みやぎ被害者支援センター)

PB-2

青年期における多元的自己と適応の関係  
杉浦 慶 (香川大学大学院)  
谷渕 真也 (香川大学)

PB-3

テキスト分析を用いたボランティア活動への不参加理由についての探索的検討  
加田 桜子 (立命館大学)  
中村 桜子 (立命館大学)  
大原 真生 (早稲田大学)  
川野 健治 (立命館大学)

PB-4

児童館・放課後子ども教室職員が考える放課後の現状と理想  
: 都内での質問紙調査から  
吉永 真理 (昭和薬科大学)

9月25日(日) 9:30 ~ 10:30

ポスター会場 (oVice)

PC-1

中高齢者における居場所と居場所感  
菊地 浩旦 (上智大学大学院)  
山田 文 (上智大学大学院)  
伊藤 慎悟 (上智大学)  
久田 満 (上智大学)

PC-2

**保育所における心理職による多職種連携の試み**

**－保育士の変化についての調査結果－**

藤原 朝洋（美樹和会）

吉田 かける（美樹和会）

高田 莉恵（美樹和会）

尾崎 将充（美樹和会）

松田 采実（美樹和会）

PC-3

**困窮者支援従事者のトラウマ理解と共感満足・共感疲労との関連**

小川 恵美子（大阪大学大学院人間科学研究科）

PC-4

**女子大におけるキャリア教育の効果評価**

**ライフストーリーの聞き取りに着目して**

石津 和子（金城学院大学）

鶴田 美保子（金城学院大学）

PC-5

**地域愛着が地域ボランティア活動継続に与える影響についての検討**

中村 桜子（立命館大学人間科学研究科）

大原 真生（早稲田大学人間科学研究科）

加田 桜子（立命館大学人間科学研究科）

川野 健治（立命館大学人間科学研究科）

## 基調講演

9月24日(土) 9:00~10:40

## 日本コミュニティ心理学会第25回大会 運営委員会企画シンポジウム

9月25日(日) 13:30~15:30

## 編集委員会・教育研修委員会合同企画 ラウンドテーブル

9月24日(土) 16:00~18:00

## 教育研修委員会主催研修会 (実践編)

9月25日(日) 16:00~18:00

## 大会企画基調講演（大ホール）

9月24日（土）9：00～10：40 大ホール

※大会後、基調講演の動画を大会参加登録者向けに配信します。

### 専門職連携の実践家を育成する地域基盤型教育 —埼玉県立大学と地域との協働過程から—

企画	日本コミュニティ心理学会 第25回大会運営委員会
講演	朝日 雅也（埼玉県立大学）

#### <講師からのメッセージ>

今日の複雑な保健医療福祉等の課題を解決していくためには、専門職間の連携が重要である。しかしながら実践現場ではとかくその専門性が壁になって、連携協働が難しいことも事実である。

そこで、まず、改めて専門職連携(Interprofessional Work : IPW)の必要性とそこに求められる視点と能力を整理する。その上で、IPWの実践家を育成していくための教育、すなわち専門職連携教育(Interprofessional Education : IPE)の展開に関するエッセンスをお伝えしたい。1999年に開学した埼玉県立大学では当初から保健医療福祉の連携と統合を目指し、様々な教育実践を積み重ねて現在のIPEの展開へと至っている。

その間のこだわりは「地域基盤型」。机上でもなく紙上でもない全学必修のIPW実習に代表される、専門分野をこえたフィールドでの直接的な学び合い。地域の関係者や地域住民との協働過程の中で培ってきた本学のIPEの特徴について、日本コミュニティ心理学会の構成員の皆様とともに考え、議論する機会になれば幸いである。

#### 講師紹介

朝日雅也 氏

埼玉県立大学保健医療福祉学部 教授

日本の保健医療福祉領域におけるIPEを牽引してきた埼玉県立大学にてヒューマンケア論を起点とする専門職連携教育(IPE)の展開に尽力されてきた。

修士(社会福祉学) / M.S. 障害者福祉・職業リハビリテーション・就労支援

関連著書として、『埼玉県立大学におけるインタープロフェッショナル教育とカリキュラム改革(特集 インタープロフェッショナル教育の実践)』(Quality nursing)、『新しいIPWを学ぶ—利用者と地域とともに展開する保健医療福祉連携』(中央法規)など

## 運営委員会企画シンポジウム（大ホール）

2日目 9月25日（日） 13:30～15:30

### コミュニティのなかで多職種協働をいかに学ぶのか

話題提供	岸本成史（昭和薬科大学）
	相楽直子（宮城大学）
	竹森元彦（香川大学）
指定討論	高橋美保（東京大学）
企画趣旨説明・司会	荊木まき子（就実短期大学）

#### 企画趣旨（医療保健福祉領域 IPE から残された課題）

公認心理師が活躍する5領域（医療・学校・司法・福祉・産業）のなかで、支援する相手や環境、日常の大部分を過ごす学校と病気になって行く病院などの各支援施設がもつ日常との距離感の違い、支援でチームを組む人・専門家により、協働的課題は微妙に異なる。例えば学校では、教員や養護教諭は常勤で常に支援を行うが、心理職や福祉職は非常勤が多く、その中での情報共有や役割分担が問われる等、各領域により、協働的課題が異なる。そのために、本シンポジウムでは、これらの医療保健福祉領域 IPE であまり焦点が当たってこなかった領域において、どのような IPE 活動が行われているのかについて、各話題提供者に紹介していただくと共に、今後各領域やコミュニティにおいて、どのような IPE が可能なのかを能力と養成の観点から議論していきたい。

#### 話題提供

##### ■ 岸本成史 氏「薬学からみた協働するために必要な能力と養成」

薬剤師業務が対物中心から対人中心へ移行し、地域貢献を行う多職種連携教育が期待されている。薬学分野から心理職への期待もお伝え出来ればと考えている。

##### ■ 相楽直子 氏「学校で協働するために必要な能力と養成」

学校における多職種連携の必要性が高まっている。「チーム学校」の構成員（4職種）の養成課程で行った多職種連携教育の試行について話題提供を行う。

（日本教育心理学会第64回総会発表論文集より引用, 2022）

##### ■ 竹森元彦 氏「心理職が多職種連携するための能力の整理と養成」

大学附属病院の各診療科等での医療心理実習等を通して、学部学生や院生、現場の多職種の専門家がそれぞれは何を学ぶのか、学びの相互性について提示したい。

#### 指定討論

##### ■ 高橋美保 氏

1日目 9月24日（土） 16:00～18:00

研究成果をコミュニティに  
—実践・フィールドからどのように研究・論文を生み出すか—

話題提供	池田 琴恵（至学館大学） 萩原 豪人（杏林大学）
司会	永井 智（立正大学）
ファシリテーター	飯田 敏晴（立教大学） 荊木 まき子（就実短期大学） 板東 充彦（跡見学園女子大学）
企画	日本コミュニティ心理学会 編集委員会・教育研修委員会

#### 企画趣旨

本企画は、実践・フィールドにおける問題意識から研究・論文を生み出す過程について、その経験や考え方を共有していくことをテーマとしています。

実践・フィールドをテーマとした論文執筆経験のある先生方から、「フィールド、実践への接近からリサーチクエスチョンを考える過程」「既存の研究・知見とどのように現在のフィールドの課題・実践を結び付けていくのか」「コミュニティという特色を、研究の中でどのように位置づけていくか」「実際の実践方法や分析方法の方法論とその習得方法等」などについてお話しいただき、参加者の方々とも意見交換をしながら、研究活動の活性化につなげていきたいと考えています。

フィールドワークをされている方や、学校、医療機関、福祉施設等における心理士など、コミュニティの視点を持って組織や地域の中で活動している方や、そうした活動・研究に興味・関心をお持ちの方など、どなたでもご参加いただけます。

## 教育研修委員会企画ラウンドテーブル（大ホール）

2日目 9月25日（日） 16:00～18:00

### 2022年度研修会＜実践編＞ コミュニティで何が起きているのか？

企画	日本コミュニティ心理学会教育研修委員会
ディスカッサント	板東 充彦（跡見学園女子大学） 飯嶋 秀治（九州大学） 黒沢 幸子（目白大学）
司会	飯田 敏晴（立教大学）

#### 企画趣旨

現在、教育研修委員会は、教育研修プログラムの開発のために、1) コミュニティ心理学的実践におけるアセスメントとはどのようなものであるのか、2) コミュニティ心理学的支援における介入技法とはどのようなものであるのか、をリサーチクエスチョンとして『コミュニティ心理学的支援研究会』を開催している。本ラウンドテーブルは、[第一部] 研究会の中間報告（板東）とエスノグラフィ（飯嶋）を素材に、[第二部] ディスカッサント3名によるディスカッション、[第三部] 参加者によるグループディスカッションを行う。さらに、[第四部] 全体シェアリングを通じて、「コミュニティ支援に関して理解されていること、理解されていないこと」を参加者全員で共有することを目的とする。

#### 内容

- 第一部  
コミュニティ心理学的支援研究会の中間報告とエスノグラフィ（30分）
- 第二部  
ディスカッション「コミュニティ心理学的支援とは？」（30分）
- 第三部  
グループディスカッション（30分）
- 第四部  
全体シェアリング（30分）

# 学会・学術イベントの開催場所にお悩みですか？

今話題の国内No.1バーチャル空間、「oVice(オヴィス)」で解決できます！

- 無料トライアル & 20%OFFのアカデミック割引も実施中 -



## ◆バーチャル空間「oVice(オヴィス)」とは

oViceは、ウェブ上で自分のアバターを自由に動かし、相手のアバターに近づけることで簡単に話しかけられる2次元のバーチャル空間です。自分のアバターに近い声は大きく、遠い声は小さく聞こえ、まるで現実の空間で話しているような感覚を味わうことができます。2022年8月末時点で発行されたバーチャル空間の数は累計3万超。トヨタやリコーなど、日本を代表する企業や東京大学などの国立大学法人を含め、約2,200の会社・団体にご利用いただいています。

## ◆学会や学術イベントなどアカデミックな場面でoViceを活用しませんか？

### ・メリット1：登壇形式からポスターセッションまで臨場感のある体験が可能

- 分身であるアバターで会場に入り講演を聞いた後、会場内を自由に動いてポスターセッションを見て回る。発表者に近づくと声が聞こえ、近くにいる参加者とも雑談するといった、実際に会場にいるような体験が可能です。

### ・メリット2：遠方からでも参加可能で、参加者同士のコミュニケーションが生まれる

- 遠方にいても参加できるため、より幅広い方々にリーチできます。また、「バーチャル空間」×「アバター」により、従来のビデオ会議システムでは実現できなかった「偶発的で流動的なコミュニケーション」が参加者同士で生まれます。

### ・メリット3：特殊なデバイスは不要。8,000人規模のイベントに対応できる安定性も

- VRゴーグルなどの特殊なデバイスは必要ありません。パソコンなどから簡単に利用でき、過去には8,000人規模のイベントも行われるなど、参加者の多いイベントでも安定してご利用いただくことが可能です。

## ◆活用事例（抜粋）

・東京大学



東京大学

・京都橘大学



京都橘大学

・日本実験力学会



日本実験力学会

・日本心身医学会



シン・心身医学

## ◆アカデミック割引キャンペーン実施中

現在、6ヶ月以上のご契約を頂くと、20%オフの金額でご利用頂けるアカデミック割引キャンペーンを実施中です。

## ◆まずは2週間の無料トライアル！

以下のURLもしくはQRコードからお申込みください。

<https://ja.ovice.tips/trial-form>



その他事例：<https://ovice.in/ja/category/usecase/>

**oVice** となりで話しているような、バーチャル空間を。

## 第25回 日本コミュニティ心理学会大会運営委員会

大会長	荊木 まき子(就実短期大学)
副大会長	谷渕 真也(香川大学)
	平野 貴大(沖縄大学)
運営委員	飯田 敏晴(立教大学)
	高橋 美保(東京大学)
	竹森 元彦(香川大学)
	水野 治久(大阪教育大学)
	吉永 真理(昭和薬科大学)(50音)順 敬称略